

では、時間的に大きなへだたりがあります。

このような地層の重なり方を不整合といい、このでこぼこの境界面を不整合面といっています。

このがけで観察される砂やレキからなるB層は、川原のレキに似ています。また、下のA₁～A₅の地層の表面のでこぼこは川のはたらきで、けずられてできたでこぼこで、B層の砂やレキは川のはたらきで上流から運ばれてきたもので、段丘性のたい積物です。

(3) 地層に近づいてその特徴を観察させる。

A₁～A₅層のつもった当時の湖底は不安定で、流速も一定しておらず、また、岸の近くになったり、岸から離れたりの自然環境でした。

A₁, A₅, A層中にレンズ状にはさまれている地層はレキ層で、レキは1cm～2cm大の円レキからできており、A₅のレキ層は水分を含んでいます。

A₂層やレキ層をはさむA₄層は砂がつもってできた砂層です。

A₃層はやや粗い粘土(シルト)がつもってできた粘土層で、表面は風化すると細かく鱗片状になる性質をもっています。

B層は30cm大の円レキが厚くつもっているレキ層で、その中にうすい、暗茶色をした砂層が水平にはさまっています。

レキは花こう岩, 硬砂岩, 粘板

